



ハウステンボスで…

台風19号が接近する中、オリジンの第33期全体研修会&社員研修旅行が、10月10、11、12日と二泊三日の日程で、長崎県佐世保市のハウステンボスで行われた。会社の社員旅行が行われなくなつてから7年が経過し、なんとかその再開を願っていた清野としては、嬉しい限りである。いまどきの若い人には、会社の社員旅行は敬遠したいという気持ちも判らぬではないが、一方で仕事の中の付き合いだけでは無く、普段とは違った環境、メンバーと懇親をし、酒を酌み交わす（古いかな、この表現は？）のも、

社内のコミュニケーションを深める重要な機会ではないかと思う。今回はたまたま、来年4月から試行する「オリジンのアメーバー体制↓幕藩体制」のキックオフイベントである全体研修会とセットの企画であったので、清野自身が幹事役を買って出て、半ば強制的に社員旅行への参加を募つたので、60名近い参加者があつた。もちろん24時間365日のサポート業務や納品業務を抱えるソフトハウスの宿命上、社員全員（74名）の参加は叶わなかったが、会社全体のイベントとして遂行できたのではないかと思っている。長崎のハウステンボスは、全国に散在する社員の人が集結する為には、飛行機の利用は避けて通れない。とりわけ、静岡の本社に勤務する人達は数も多く、静岡富士山空港から地元の鈴与が設立したFDA（フジドリームエアライン）で、ほぼ貸切状態（少しホラかも…）で福岡空港に移動。他の地域から福岡空港に集結した人達と合流し、2台の大型バス

清野吉光氏のコラム 第71回

団塊 耕 志 録

清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年㈱タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。



オリジンのDNA

に分乗してハウステンボスに移動した。オリジンはタクシー業界に特化して、全国展開をしている会社なので、比較的全国への出張が多く、またその分飛行機の利用もそこそこに多い。しかし、静岡の本社業務を担当する人や、各地域の営業を担当する人は、こうした遠隔地への移動は少なく、また長崎も初めてという人が多かった。今回、何故わざわざ長崎のハウステンボスを研修会の会場として選んだのかと社員の人から問われたが、一つには第3セクターとして出発しながら破綻したハウステンボスが、旅行会社のHIS澤田会長が買収し、見事に再建したという物語性が、経営改革を目指すオリジンのキックオフイベントの会場として相応しいのではという思いもあった。しかしもう一つに、普段飛行機に乗る機会の少ない静岡本社の人達に、そうした経験をしてもらいたかった。が、である。結果九州が台風19号の進路に入り、ヒヤヒヤを思いっきり味わう事にもなった。しか



絶妙なタイムコントロール？

し、誰の行いが良いのか（？）、台風の進行が遅くなつて、多少の強風と一時的な雨には見舞われたが、帰路も飛行機は定刻通り飛び、全員無事に帰る事ができた。「私の添乗の旅では飛行機が飛ばなかった事はありません！」と豪語したHIS添乗員の白井さんに、ただただ感謝するしかない！

行きのハウステンボスへの行路が順調で、ハウステンボス内での会議場に早く着き、予定より30分早く全体研修会を開始する事ができた。さらに20分を予定していたOK挨拶（会議開始

前に全員が全員名前を呼び、よろしくと握手する)が10分で終わり、当初60分と割り当てられていた清野の基調プレゼン「経営改革における幕藩体制の意義と役割」が少しは延びて良いよと、清野は勝手に解釈をした。過去の社内の全体会議、全体研修会で、いつも清野のプレゼンは時間がオーバーし、響盛を買う事が多いので、今回は事前にタイムキーパーのソフトをセットし、1分の狂いも無く、終わる筈(だった...)。しかし、開始が30分早まり、さらに前の予定が10分早く終わったので、折角セットしたタイムキーパーが無効になり、エイヤーの体内時計に任せられる事になった!(実は、会場に時計があったらしいが、全然気がつかなかった!)こうなったらこちらの方が物である(?)。結果として浮いた時間40分をフルに使って、100分のプレゼンテーションになってしまった。自分自身では比較的大人しくて、控えめで、シヤイな人間だと思っているのだが(...、無意識(本能?)



のレベルで意外と目立ちたがり屋なのだろうか?と自らを疑ってしまうような展開ではあったが、100分をかけてでも社員の人に伝えたかった何かしらの思いがあったのだと、前向きにかつ都合よく解釈する事にしよう!

幕藩体制準備会の発足

幕藩体制などという時代錯誤的な言葉が今のオリジンでは飛び交っているが、その辺の詳しい事情はタクシアジャパンの本連載コラム第67回「幕藩体制検討ワークショップ」(2014年

5月記)を参照して頂けると有り難いが、このコラムで触れた「幕藩体制検討ワークショップ」が9月までに5回に渡って行われ(内、中3回は一泊二日の合宿形式)、さらに予定より前倒しで、一気に、幕藩体制検討ワークショップの参加メンバー一人一人から、幕藩体制の人事案まで推薦をして貰い、推薦されたメンバーへの二人の代表者の集中的な個人面談を経て、このハウステンボスでの人事体制発表となった。そして来年4月からの幕藩体制の試行に備え、幕藩体制準備委員会が発足し、次期將軍を勤める海野副社長がその推進役を勤める事になった。

幕藩体制の狙い

このIT経営の時代に「幕藩体制」などという前時代的な言葉や仕組みを持ち出すのは、あほか、と響盛を買いそうだが、オリジンの持つ良きDNAを復活、継承して行く為のかなり真剣な試みだと思っている。良きDNAとは、お客様の

ニーズと結び付き、そのソリューションを自己革新(自己成長)を通じてなす遂げようとする姿勢であり、それを小集団、社員参加型で迅速になしとげる為の仕組みである。かつてオリジンの第2次創業期は、自然発生的でかつ質、量においては低レベルではあったが、そのような意欲と仕組みを持つていた。が、オリジンは成長したがゆえに、大企業病に陥り(こんな小さいのに!)、したがって、マネージメントが意識的、組織的に、そのDNAを継承、発展するような、意識改革と場作り(経営改革)を行われねばならない。その総体が「幕藩体制」と表現されるものである。誰もが有る意味経験の無い世界、とりわけ基軸となる藩のマネージメント(藩主、副藩主)が最も問われ、また、だからこそ成長できる場でもあり、次期経営者人材の育成の場でもある。恐れず挑戦に応じてくれた社員の人すべてに、心から感謝をした

い。
(2014年10月21日記)

タクシー買取専門店だから出来る高価買取

LPG、ガソリン、過走行、低年式等でも大丈夫!

株式会社ジェット

☎ 03-6454-9896

〒174-0041 東京都板橋区舟渡 1-15-9 ブロー浮間舟渡 101 FAX: 03-6454-9994 東京都公安委員会 第305561207814号